

シカ被害対策現地検討会を開催

～ 低コスト造林を目指し シカによる被害レベルの判定の現地検討会 ～

令和元年9月18日、大分県佐伯市宇目の切込国有林1045林班において、シカ被害対策現地検討会を開催し、森林総合研究所九州支所2名、(株)九州自然研究所2名、九州森林管理局6名、森林技術・支援センター2名、大分森林管理署9名、総勢21名が参加しました。

現地検討会は、九州局技術普及課 甲斐 企画官(技術開発担当)の司会進行により、検討会の趣旨の説明を行った後、主催者を代表して九州局 鎌田 森林整備課長 から「九州局管内では、再造林を進めるうえでシカ被害が大きな課題となっている。シカ被害対策としてネット設置に係る経費・労力も膨大である。このような現状を踏まえて、再造林を低コストで実施するためにどのような手法があるか、本日の現地検討会の中ではシカ被害レベル判定を主体に出席者の皆さんの活発なご意見・議論をお願いしたい。」と挨拶。

つづいて、大分森林管理署 大原森林事務所 菅森林官から検討会のフィールドの伐採前の林況・傾斜・植生などの概要説明を行いました。

現地検討会では、(株)九州自然研究所の三浦副所長、城戸 研究員からシカによる被害レベル(0～4)について、実際の被害状況の写真を用いて説明がありました。

参加者からは、判定する調査エリア(面積)はどれくらいか、人工林と天然林では違いがあるのかなどの意見が出されました。

その後、各自でシカの食痕、シカの通り道などを調べチェックシートのフローチャートに沿ってシカによる被害レベル判定を行いました。

シカによる被害レベル判定を行った結果、レベル判定には周辺の植生状況など入念に調査することが重要になることから、様々なケースに対応できるように取り組んで行くこととしました。

おわりに、峰内保全課長から「本日の現地検討会で出されたご意見を精査するとともに、将来的には民有林への普及も視野に入れて、更に取り組んでいきたい。」と挨拶があり、本日の現地検討会を終わりました。



現地検討会の様子



左から 甲斐企画官、鎌田森林整備課長、峰内保全課長、坂本署長



森林総合研究所九州支所
右から 山川研究員、野宮研究員



(株)九州自然研究所
左から 城戸研究員、三浦副所長